

景況実感調査(2018年4月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 実働20日となり対前月比1日減。売上、数量共に前月と同様に活気が感じられず、店売り市場は一時の高揚感はなく、タイト感も薄らぎ、実需の盛り上がり無くして値上げも足踏み状態となっている。荷もたれ感は無いのものの一部紐付き物以外は不調。連休明けも景況に変化が見られず、不透明な新年度スタートとなっている。
- ② 自動車関連、建設機械関連を中心に堅調な動きをしている一方で、店売りの荷動きは精彩を欠く状況である。市況は値上分を転稼出来ておらず、継続して実施していく。
- ③ 例年の通り年度末の反動で4月の荷動きは悪かった。これだけ悪いと市況が下がってもおかしくないが、下がらずに少しではあるが上昇したのは高炉メーカーの値上げ幅に市況価格が追い付いていないからであると思われる。荷動きに関係なく値上げをしていく。
- ④ GWの前も後も特別引合いもなく、依然としてかったるい状況だ。タイト感もなく、値上げにも時間を要している。たたき売りとまではいかないが安値販売が散見され、値上げに苦慮している。歯抜けも無く、在庫は適正水準にある。

中板

- ① ハイグレードファブは仕事をたくさん持っているが、下には降りてこない。オリンピック関連の話も聞こえず、秋・冬のいつもの忙しさに期待するしかない状態だ。
- ② 年明け後、店売り市場は量的にも價格的にも停滞感が漂っていたが、4月に入っても依然として引きずっているような印象で、踊場的な状態が続いている。こうした膠着状態の厳しい状況下、一部取扱い筋で市況からかけ離れた価格提示や安値での成約が聞かれるようになってきた。一方で、各メーカーの価格面も含めた強気の姿勢は変わらず、流通としてはユーザーへの価格転嫁と市況動向に懸念を感じているところである。

厚板

- ① 厚板需要は首都圏に集中しており、5月からも明細が出て店売りマーケットにも仕事が出て来るだろう。メーカー値上げは継続している。しかし流通としては、今は価格(市況)をしっかりと維持し、積み残し分を含めて次も値上げのチャンスを探っているところである。

开金岡

- ① 現業は定時に仕事が終わり、ここ1年間残業の無い状態が続いている。オリンピック需要の繁忙期と、手ぐすねを引いていたが裏目に出た感あり。例年荷動きの悪い5月を、思い込みをせずに遣り過ごせば3か月後の7月には景況は好転するか?メーカーの値上げ意欲と流通末端の荷動き不振で厳しい3カ月だ。

正形鋼

- ① 4月の倉出しはマイナスだが、前年同月比はプラス。前月3月比では大きな変化はなく、市況も横這い。6月以降の物件が出件されるので市況の転稼を実行していく。

異形棒鋼

- ① 物件向けの出荷増で売上は伸びたが、採算が悪く粗利率が低下。苦しい業績となっている。特に在庫販売が低調。

平鋼

- ① 価格転嫁推進により少しずつ利益改善に向かっているが、市中の動きは一服感がある。加工業者は業種にもよるが、軒並み堅調。
- ② 荷動きが急に悪くなった。店売り全般で落ち込んだ。物件の遅れによる停滞もあるのかも知れない。動きが悪く価格転嫁に苦慮している。

車量開鋼

- ① 取引先の動向次第ではあるが、上向き傾向。
- ② 店売りは低調が続いており販売価格も上がってこないため、収益面は一段と厳しくなっている。
- ③ 受注が伸びない上に注文品種に偏りがあるため生産効率が悪い状況が続いている。

鋼管

- ① 前月比横這い。低位安定で推移。メーカー追加値上げによる再販価格改定が急務。
- ② 出荷は4月後半からやや回復基調であり、先物件の引合いは多くなってきている。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連・建設機械関連及び工作機械等の輸出を中心に高水準で推移しており、特に建設機械の鉱山開発用の大型機種が増加しており、しばらく続くものと思われる。店売りの荷動きは紐付きほど活発ではないが堅調な動きとなっている。メーカーの生産がタイトな状況が続き、受注抑制や納期遅れにより市中在庫は品薄感が一段と強まっている。市況については、メーカーの値上げ実施に伴い、4月より値上げを実施し、さらに適正な採算確保に向け6月より追加値上げを実施していく。
- ② 各メーカーからのロールスキップや枠制限の影響で、在庫の歯抜けが目立っている。
- ③ 磨き棒鋼は、自動車、産機向けともに旺盛な需要が続いている。ただし、素材供給が追い付かず、納期対応に苦慮している。それに伴う配送コストも上昇傾向となっている。素材価格上昇分に加えて諸コスト分の上昇も合わせて販価に転稼をお願いしている。

鋼材全般

- ① 3月より4月の方が若干だが荷動きが悪い。その影響もあって値上げが進まない。日建のプレス発表もあり、5月以降は荷動きにかかわらず値上げを実行する。

その他

<スクラップ>

- ① 3月末から4月中旬の2週間で価格が急落した。国内のメーカー各社は製品価格をまた値上げするとの話を聞くので、スクラップも続落はないのではないかと思うが、海外市況がいまいちなのが不安要因。

<金属表面処理加工>

- ① 4月は紐付き、物件物ともに計画通り。スポットは前月比20%減の扱量となり計画より大幅減となった。5月は継続中の物件物のピークを迎え、操業的には維持出来そうであるが、スポットの量によっては4月と同様になりそうである。5月から塗料の再値上げのアナウンスがあったこと、及び車両手配難による運賃上昇傾向の継続にて更なるコスト増となっている。